

史跡案内(古賀地区)

古賀史跡案内ボランティア

平成15年08月01日

I 古賀地区史跡めぐりコース

戦没慰霊碑(貴船神社跡) A →古賀神社 B → 4 番札所 c →飯田橋(4 番奥の院) D
→皇石神社(鹿部山・東野町遺跡) E →田淵遺跡 F →永浦古墳群 G →日吉神社 H →
皇石神社跡 I →称善寺・3 番札所 J →日吉神社跡 K →大松神社 L →古賀駅周辺 M

II 古賀地区史跡

1. 戦没慰霊碑・貴船神社跡 【A】

- ① 戦没慰霊碑：青柳、小野小学校にあった護国の塔、殉国の碑に異常がみられ危険さえ想像される状態となったので古賀の慰霊塔に合祀し、併せて戦没者芳名を石碑に彫刻し永く後世に伝えることとした。
- ② 庁舎敷地沿革碑：昭和33年に古賀神社から戦没者慰霊敷地として寄贈されたが昭和45年に町勢の進展を期し古賀庁舎敷地として選定された。かつてここには旧貴船神社の神殿を中心に舞台あり、土俵ありで実りの秋には住民総出で賑わった。昭和46年にこの地に庁舎が建設された。

2. 古賀神社 【B】 (別紙)

- ① 祭神：大日神・素戔鳴尊・埴安神・高龕(たかおかみ)神・闇龕(くらおかみ)神・大山咋神
- ② 由緒：昭和27年、現在地にあった浦口神社に皇石宮・貴船神社・日吉神社を合祀。
- ③ その他：平成14年火災、同15年再建。

3. 4 番札所 【C】

- ① 粕屋北部新四国千人参り札所。本尊不動明王、左右に大日如来・大師像
- ② 明治13年、小山田長勝寺堀田徳瑞上人の発起。

4. 飯田橋(4 番札所奥の院) 【D】

- ① 粕屋北部新四国千人参り札所。本尊地藏菩薩

- ② 地蔵菩薩像由来記：昭和11年6月2日着工の飯田橋の架橋が悪天候続きで難航。県営の山口技師は6月10日の夜の睡眠中角度を変更し交通安全を期せ、という夢を見る。村長などに相談し角度変更を決定。しかしその後も梅雨期の増水などで工事難航す。8月19日左岸橋台付近を掘削中、地下18尺の地点より地蔵尊の下体半分を発掘、翌20日上体半分を発見。称善寺にて懇ろにお参り。その後無事工事は完了す。
- ③ 飯田地蔵尊：板碑に地蔵尊を陰刻したもの。木下讃太郎(福岡の郷土史家)は、板碑に陰刻した地蔵菩薩像で、刀法が力強く、近世の作でない、源平時代、と。

5. 皇石神社(鹿部山・東町遺跡) 【E】(別紙)

- ① 祭神：埴安命(はにやすのみこと)
- ② 由緒：享禄3年(1530)の神社再建の棟札によれば大石大明神と呼ばれていた。神体は平たく巨大な立石である。文政3年(1820)には社名も皇石に変わっている。御神体の大石は支石墓の一部と思われる。
- ③ その他：槇の群生

6. 鹿部山 【E】(別紙)

- ① 周辺から縄文時代から古墳時代にかけての多くの遺跡が発見された。
- ② 経筒の発見：鹿部山の「中の峰」の頂部に埋納されていたものを昭和46年に出土。古賀の歴史を考える上で貴重な資料。
- ③ 永久元年(1113年)、銘文(席内院・父々夫峰・願主観世音寺僧良意)

7. 東野町遺跡 【E】

- ① 弥生時代の遺跡として土器・石器・木器類がおびただしく出土。

8. 田淵遺跡 【F】

- ① 粕屋の屯倉の可能性があるとされたが、その後の発掘ではそれを証明する遺跡も出ず埋め戻された。
- ② 発掘の経緯：平成10年より実施されている鹿部土地区画整理事業に伴い平成11年度に発掘調査が行われた。
- ③ 複合遺跡：弥生時代中期の集落、古墳時代後期の大型建物群、鎌倉時代の墓域からなる。

9. 永浦遺跡 【 G 】

- ① 4 世紀末から 5 世紀前半にかけて築造。4 基の古墳が確認された。4 号古墳は墳径 2 5m 前後の円墳。副葬品として甲冑などが発見された。

10. 日吉神社 【 H 】

- ① 祭神： 大山咋命(大山祇命とも)
② 由緒： 糟屋郡神社誌に「筑前国続風土記に山王社権現とありて元山王権現社と言へり。天正 3 年(1 5 7 5)に勧請。明治維新日吉神社と改称せり。境内が国鉄線路に断たれ参詣に危険と社殿の白蟻の被害により昭和 3 5 年 1 2 月 4 日許可を得て現在地に移転改築せり。」
③ 祭事： 4 月、1 0 月
④ 境内社： 須賀神社

⇒ 古賀神社に合祀された日吉神社はここではなく後牟田にあったものである。

(1 3 . 日吉神社跡、参照)

11. 皇石神社跡 【 I 】

- ① 大字古賀は往古花津留浜と称し漁人が居住し天神社を氏神として祀っていた。後に近隣の鹿部村から農民が多く移住してきて産土神皇石神社を勧請し氏神
② 昭和 2 7 年浦口神社、後の古賀神社に合併合祀され廃社となった。
③ 平成 1 4 年の古賀神社の火災焼失の再建の際、この土地は売られ、楠、手水鉢などは取り払われた。

12. 称善寺 【 J 】

- ① 宗派・本尊： 宗派)浄土宗西山派、大長寺に属す。本尊)阿弥陀如来。山号)一花山清涼院。 住職)城井(きい)清典
② 縁起： 花鶴ヶ浦に古来より庵があったが、文明 2 年(1 4 7 の専空行寿秋阿上人が開祖と伝えられる。
③ 伝阿弥陀如来、銅造如来形立像
・ 鑄銅造。量目 3 0 斤半、高さ 1 尺 5 寸と伝えられていて秘仏である。
・ 平重盛の寄進に応え宋国から文治年間(1 1 8 5 ～ 1 1 9 のに伝来。平家が滅び宗像郡江口浦五月浜の近くの海中に沈めた。文明元年(1 4 6 9)地ノ嶋の漁師の網にかかり、文明 1 2 年 1 2 月 2 5 日に称善寺に迎えた。
・ 幾度も盗難にあい、完全な姿は見るべくもないようになったが、手首や足の甲のふくよかなこと、唇の厚いことなど古仏のおもかげあり唐時代のもので統一新羅

(奈良時代)あたりから渡来したものでないかと思われる。本市随一の貴重な古仏である。

- ④ 3 番札所： 本尊釈迦如来

13. 日吉神社跡【 K 】

- ① 昭和 2 7 年に浦口神社、後の古賀神社に合併合祀され廃社となった。

14. 大松神社【 L 】

- ① 古賀ゴルフ場 8 番ホール近く

- ② 由来： 松林にあった祠を、昭和 2 8 年古賀ゴルフクラブのオープン時に新たに祠を整備し、元からあった人頭大の石をご神体として最初の神事を行った。

⇒ 祠にまつわる話)嵐の日、漁に出かけたまま帰らぬ夫を、新妻は浜に篝火を焚いて幾日も待ち続けた。待ち侘びとうとう亡くなった女人を村人が哀れみ焚き火の跡の石を身代わりに祠に祀った。今も石に焼け跡が残るという。

- ③ 祭礼： 5 月、1 0 月の第一土曜日に春秋の例祭

15. 古賀駅周辺【 M 】

- ① 明治 2 3 年古賀駅開業、明治 4 2 年小松屋。大正の中頃以降に発展していったものと考えられる。